

第3回

海洋観光・

海を身近に懇談会

(1) クルーズ客船の魅力や楽しみ方について

アスカクラブ会長 幡野 保裕様

(2) 多島海である瀬戸内海でのクルーズの取り組みや魅力について

瀬戸内海汽船株式会社 代表取締役社長 仁田 一郎様

(3) 意見交換



「クルーズ客船の魅力や楽しみ方」

アスカクラブ会長 幡野 保裕

※コメント動画は、Facebook にて配信中！！

1995年から2003年まで、「飛鳥」の船長を務めていました。その後、2011年まで陸に上がり、船員の教育や航路の選定等の業務を行いました。現在は、クルーズの魅力等を各地で公演等を行っています。

本日、見学していただきました飛鳥Ⅱは、日本で一番大きなクルーズ客船になりますが、ベルリッツ社が個別船ごとに評価されている中で、4つ星プラスの評価をいただいています。この評価は、世界で285隻評価されている中で、約18番目に評価されています。なお、中型船の中では世界のトップ5に入ると言われており、日本が世界に誇るクルーズ客船だと思います。

私は、クルーズを表現するとき、「時の揺り籠」と表現しています。これは、船の中に一步踏み入れたら、すべての時間がお客様のものであり、非日常的な時の流れを楽しめることこそクルーズの最大の魅力であると思うからです。また、クルーズは、高価というイメージがありますが、オールインクルーズ（滞在費・移動費・食費・船内のエンターテインメント費が含まれている）となっているので、そこまで高価ではないのかと思います。しかしながら、日本の船は、日本の船員を多く雇用していること、航海の規制、食品の仕入れ等を日本で行っているため、コストがかかっており、世界的に見たら若干高くなっています。

クルーズは、旅に求められる5要素（安全・安心、快適、便利、感動、健康）が全て含まれています。

1つ目の「安全・安心」という点は、世界を回る航海のため、政治的な問題や異常気象等が起こりますが、様々なところから情報をいただき、危険なところには航海しないことになっています。また、診療設備を充実しており、長期の場合は、日本語の分かる医者2名及び看護師が3名乗船しているため、旅をする上で心強いと思います。

2つ目の「快適」という点では、美味しい食事に楽しいエンターテインメントを味わいながら移動ができるので、快適に過ごせますし、船といえば「揺れ」が連想されますが、最近の船は横揺れを95%軽減するフィンスタビライザーが搭載されており、縦揺れは船が大きいほど軽減されますので、揺れは船内で過ごす上で不自由は感じません。また、パイロットも船を揺らさないことが最大のサービスと心得ているため、台風が発生しても、様々なことを考えて揺れを軽減することに尽力しています。

3つ目の「便利」という点では、荷造りをしないで旅ができることです。クルーズ中の出入国もスムーズに行え、寄港地での旅行の時間を短縮できます。その他に、飛行機では荷物の重量制限があったりしますが、船であれば大きな荷物も自由に持ち運べます。

4つ目の「感動」という点では、自然との出会い、海からの景色、人との出会い等、全て本物である感動を味わえます。

5つ目の「健康」という点では、食事は十分取れますし、フィットネス設備も充実しているため、しっかり食べながらしっかり運動ができます。また、船は海のヒーリング効果を感じることができる最適な場所となっており、過去には、がんの末期で人生最後の旅ということで参加された方がいましたが、クルーズの間に元気になられ、その後、数年生きられた方もいました。

クルーズというものは、非常に楽しいものなので、一度はクルーズの良さを味わっていただきたいと思います。



「多島海である瀬戸内海での
クルーズの取り組みや魅力」
瀬戸内海汽船株式会社 代表取締役社長
仁田 一郎様

※コメント動画は、Facebookにて配信中！！

瀬戸内海は、大小含めて約3,000の島があり、周囲100m以上の島が727で、小さい海域に多くの島があります。

瀬戸内海の魅力としては、四季を感じられ温暖であり夕日や渦潮など、世界からも評価されている「風景」の魅力、造船所、鉄工所、古来からの塩産業、水産業、農産業などの「産業の場」としての魅力、島で生活されている半農半漁、無人島体験、瀬戸内の島を回るサイクリングなどの「島での体験」の魅力、瀬戸内国際芸術祭、しまのわ2014などの「イベント」の魅力がありますので、ぜひ豊富な魅力がある瀬戸内海の島に渡って、観光として味わっていただきたいです。

瀬戸内海のクルーズは、遊覧船、呉軍港めぐり、夜の宮島で船を使った鳥居くぐり、レストラン船などが各地で行われています。また、最近ではチャーター船を利用した日帰りクルーズが盛んに行われています。

- ・急流や渦巻き等の能島潮流体験と村上水軍ゆかりの史跡探訪クルーズ
- ・島の造船所へ行って進水式等を見て回るクルーズ
- ・白石島の「白石踊」、歴史建造物跡が残る「大久野島」等を巡るクルーズ

そのほかに、定期航路を利用したクルーズとして、広島港と江田島間の短距離航路で、ナイトクルージングと称して、格安で体験できるツアーも行っています。

最近では、大型客船も寄港しますが、朝入港し夕方に出港するので、瀬戸内海の魅力を味わっていただく上では、少々時間が足りない状況です。

今後、瀬戸内海でやっていきたいクルーズですが、チャーターヨットやボートを使って、プライベートで島々を巡れるようにしていきたいです。また、気球、飛行船、コミューターを使うなど、空からの遊覧も楽しめたら面白いと考えています。さらに、小さな島々を巡れるように5,000t以下、定員100名程度の小さなクルーズ船を使って、瀬戸内海で宿泊型のクルーズもやっていきたいです。そのほかに、JR豪華寝台列車と連携したり、既存フェリーを改造してキャンピングカーやコンテナハウスを積み込んで島を巡るなど、「海と陸とのコラボ」を可能にできれば面白いと考えています。

瀬戸内海はテーマパークと考えていますので、様々な体験ができる世界最大、世界最高のテーマパークとして世界中に売り出していきたいです。例えば、大久野島では、30泊の長期滞在ロングステイプランがあります。これは、30日滞在しても色々な島での体験があり、お客を飽きさせないようになっていますので、このような取り組みを広げていきたいですし、修学旅行の誘致や民博体験型旅行にも力をいれていきます。また、新ゴールデンルートとして考えられている京都～広島～松山についても、有効活用して今後の目玉としていきたいです。さらに、国内外からの要望が強いWiFiについても、瀬戸内海の島々や海上において利用可能になれば、さらに活気付くと思っています。

意見交換



幡野会長、仁田委員の話、飛鳥Ⅱの船内見学を踏まえての意見交換

会場：飛鳥Ⅱ 船内コンパスルーム

（矢ヶ崎委員）

それでは、最初に順々に幡野会長、仁田委員の話、飛鳥Ⅱの船内見学を踏まえて意見を述べていただきたいと思います。

楓委員からお願いします。

（楓委員）



先程、仁田委員からも説明がありましたが、瀬戸内海の景色は、本当に素晴らしいと思いますので、ぜひ皆様に船の上から見ていただきたいと思っています。

当社で発行している中高年向けの雑誌「ノジュール」で実施したクルーズに関する読者アンケートでは、海外も含めてクルーズをしてみたい方が約60%となっていました。それも30万円ぐらいの費用のクルーズを希望されており、クルーズへの、潜在的な興味は高いと認識しています。JTBグループでもクルーズに力をいれていますので、これからお客様は増えていくのではと思っています。

なお、質問になりますが、飛鳥Ⅱは瀬戸内海を航海されているのですか。

(幡野会長)

飛鳥Ⅱでは、瀬戸内海も航海しております。ただし、航行規制の関係で朝しか通過できませんし、喫水の関係で寄港できる港も制限されています。しかしながら、瀬戸内海は、様々な島や橋が見られますので、お客様からは大変人気があります。

(矢ヶ崎委員)

次に、田久保委員お願い致します。

(田久保委員)



私は、仕事柄客船に乗る機会は多く、今回の飛鳥Ⅱにも乗船したことがあります。以前、飛鳥Ⅱに乗船した際には、加山雄三さんの若大将クルーズに参加しました。夜のコンサートでは、会場がプレイヤーと近いので目の前で歌われていました。また、船内では、よく加山さんと顔を合わせますので、加山さんと一緒に生活している気分になれますので、大変人気があるそうです。

世界中のクルーズ客船には、様々な大きさの船がありますが、最近の傾向として、非日常を味わい、狭い航路も走れるということで、小型のラグジュアリー船が求められてきています。

また、クルーズでは、長期間拘束されますが、文化的・歴史的なことや生物に関するインストラクターが同乗しており、様々な島に渡って案内してくれますので、普通では味わえない体験ができます。過去にミャンマーのイラワジ川をクルーズした際には、上流までのぼって行くと、子供の時の原風景に出会い非常に感動した経験があります。

仁田委員より、チャーターヨットの話がありましたが、私も応援していますので、ぜひ進めていただければと思います。

(矢ヶ崎委員)

次に、なぐも委員お願い致します。

(なぐも委員)

本日、飛鳥Ⅱの船内見学に参加させていただき、このような船で美味しいものを食べて過ごせたら、素晴らしいと感じました。

私は、バスガイド歴 20 年程ですが、働き始めた時と今とでは、お客様の考え方が違ってきていると感じています。それは、東日本大震災の原発事故の影響で、本当に美味しく安全な食べ物を食べたいというニーズが増えているということです。船の旅ってというのは、乗ったことがない方は、「船の生活は不自由であり、食べ物も簡単なものしか食べることができない」というイメージを持っている方もいらっしゃると思います。今回のように船内見学をもっとお客様に見てもらえる機会が増えたら、よりクルーズ船の魅力が世間に浸透すると思いました。



また、横浜のような港町に来たら町全体がテーマパークみたいで、ワクワクします。やはり、船や港だけで考えるのではなく、町づくりと連携することも必要

ではないかと感じました。私が住んでいる新潟は港町ですが、このように陸から船が眺められる場所があまりなく、車に便利のように町が作られており、港に背を向けたような町づくりになっています。

(矢ヶ崎委員)

次に、坂下技術審議官お願い致します。

(海事局 坂下技術審議官)

2つご質問があります。

1つ目は幡野様にご質問ですが、飛鳥Ⅱでは、外航のクルーズ中心の船になっていますが、国内でも周遊クルーズを行われています。現在、国内では、船は非日常を楽しむというより移動手段として利用される方が圧倒的に多い中で、今後、国内の客層を広げ、より多くの方に乗っていただくためには、これからの国内でのクルーズの可能性はいかがでしょうか。



2つ目は仁田委員にご質問ですが、私は役人の初任地が香川県の高松でしたので、瀬戸内海には思いも深く、また、魅力があると感じているところです。

しかしながら、これだけ橋がかかっている現状で、移動手段として瀬戸内海を楽しむ航路というのは無いと思うのですが、今後、船旅を楽しみながら移動もできるという可能性はいかがなものでしょうか。

(幡野会長)

日本のクルーズ人口は、約20万人となっています。昨年は、海外のクルーズ客船の寄港が増えたこともあり、今年の統計は、約23万人となり過去最高となっています。海外と比べて日本のクルーズの難しいところは、気象や海象が安定した海域が少なく、台風や低気圧等の影響を受ける機会が多いこと、また、日本のクルーズ客船は3隻しかなく、ランクも同じということで選択肢の幅が非常に狭いといった問題があります。



今後、色々な方にクルーズに乗っていただくためには、日本の船社が頑張り、ランクの違う船を作り、さらに海外の客船を誘致することだと思います。海外の船社は、日本人の客をお金持ちで元気な熟年層が多いと思われており、将来性があるといわれています。

世界的に見て日本のように、1～100日までの幅広いクルーズを行っている船会社は少ないのが現状です。外国の船は、10～14日のクルーズを繰り返しており、ある意味ワンパターンですが、コスト削減には有効な手段となっています。

逆に日本の客船は、一つずつお客様のニーズに合わせて組み立てているので、コストがかかっていますが、お客様の中には、今の金額の半額だと乗りたいとおっしゃる方もいますので、金額を下げることも必要かと思えます。

しかしながら、これは、船会社だけが行うのではなく、色々な規制や港湾の利用料等が関わってきているので、様々なところが協力して、値段を下げることも必要かと思えます。

(仁田委員)

カーフェリーの事業は、トラック輸送が収入の大部分を占めます。最近の長距離フェリーは、客室面でグレードアップされていますが、基本はトラック輸送であるので、お客様の快適さを求めて運営を行うことは難しいのが現状です。また、日本のクルーズでは、人件費の問題もあり、海外のようにカジュアルなやり方はできにくいです。カジノや免税品などの規制の問題もかなり大きいと思います。

(幡野会長)

カーフェリーのサービスをクルーズ客船のサービスに近づけてくれという話を聞きますが、北欧のフェリーボートはクルーズのサービスに近いサービスをしていますので、そのようなサービスができればクルーズへの理解も広がるかもしれません。

(矢ヶ崎委員)

次に、河村課長お願いします。

(海事局 河村総務課長)



瀬戸内海というのは、非日常という話が出ておりましたが、地元の方はどのように捉えられているのかと思いました。

私は、東京生まれ東京育ちですが、こちらから見たら、瀬戸内海はまさに非日常だと思います。社会人になって、四国に渡り船にりましたが、海原風景が素晴らしと感じましたが、乗って見たら、生活航路や、物流の動脈でしたので、そのようなところに乗る機会がないので、良い経験になりました。

また、大都市から離れている瀬戸内海を何かしらで結びつけることができればいいのではないかと思います。

(矢ヶ崎委員)

距離は埋められませんが、心理的な距離を埋めて、近いと感じていただければいいのかと思います。

次に、守谷委員お願いします

(守谷委員)

船というのは、非日常であり、潮風を感じるなど自然を感じることができるのですが、とりあえず一度乗ってもらうことが、一つのハードルだと感じています。

当社では、隅田川で運航していますが、首都高速で遮られているため、川から見る景色というのが物足りない状況で、お客様に乗ってもらうために考えたのが、漫画家（松本零士）による船のデザインでした。



しかしながら、デザインに凝りすぎて窓が開かなくなってしまうという問題も途中で判明したのですが、一度船に乗ってもらうための話題づくりのために、そのまま作りました。

また、今回、見学させていただいた飛鳥Ⅱについても敷居が高いですが、ワンナイトクルーズ等もあるとお聞きしたので、ぜひ今度乗って見たいと感じました。

瀬戸内海の話でも感じましたが、船というのが通勤用としての利用がメインとなっており、また、小さな船では、港や川での使用については、通勤用以外ではあまり想定されていないと思います。客船をもっと利用していく上で、港や川側の整備ができれば、もっと多くのクルーズができるのではないかと感じました。

(矢ヶ崎委員)

次に、林委員お願い致します。

(林委員)

船の楽しみとして、港に戻る際に海からの様々な地形を見ることができるということも思います。小さな船では、大きな防波堤があったら水際しか見えませんが、飛鳥Ⅱのような大型クルーズ客船であれば、見え方が全然違って、展望台が海の中にできたような錯覚を味わえると感じました。また違った客船の魅力があるんだと感じたので、機会があればぜひ乗って見たいと思いました。



(矢ヶ崎委員)

第1回懇談会の葉山マリーナで、ヨットに乗船し水面スレスレを経験し、今回は、15階建てのビルに近い高さの船に乗っており、そのような違った目線から見て、船によってこんなに海からの距離が違うのかと私も感じました。

それでは、一巡しましたので、自由に意見をお願いします。

(楓委員)

関東在住の者からみたら、瀬戸内海は遠いと河村課長は言われていましたが、当社のガイドブックにおいても、瀬戸内海周辺の本は、関西では売れるが、関東ではあまり動きません。私は、瀬戸内海に関しては、どうぞ関東のことは気にせず、豊富な魅力を世界にどんどんアピールするのが良いと考えます。

また、クルーズには、家族連れが乗りにくいとおっしゃっていましたが、3世代旅行の需要は非常に高まっています。海外旅行や日本の宿も対応するようになってきており、クルーズも3世代をターゲットに考えてみたらいかがでしょうか。

(仁田委員)



河村課長のお話についてですが、瀬戸内海では地元の方が楽しんで生活していることが大事だと思います。そこに、都会や海外の人達が瀬戸内海の面白さに気付いていただき、人が集まってくればと思います。先程説明した大久野島では、海外から来たオーストラリア人がウサギと遊んでいる風景をユーチューブに投稿したことでブームとなり、お客が増えたそうです。

また、海外では、ライフスタイルの中で都会に近い島に住んで本土へ通うというのが贅沢なライフスタイルとなっているそうです。そのような価値観が日本でも定着したら、島も活性化してくると思います。

さらに、瀬戸内海を見てもらおうポイントとして思ったのが、橋の裏側にアートを描けば船でしか見ることができないのでいいと思いますし、無人ヘリコプターにカメラを付けて空から船や島の景色を見るのも面白いと思います。

(幡野会長)

先程、3世代でクルーズを楽しむという話がありましたが、飛鳥Ⅱでも3世代をターゲットとしたサマークルーズと称して、横浜から神津島へ行くクルーズを行っています。非常に好評となっています。しかしながら、客船というのは、全て2部屋となっているので、3人部屋も少しありますが、救命艇などの問題があり、一つの部屋に大人数宿泊していただくのが難しい状況です。

また、日本の港でクルーズを誘致したいという話をいただきますが、日本のクルーズ客船は3隻しかないので、誘致するなら外国の船になってしまいます。しかし、外国船籍であれば開港した船となって限定されますので、私からは、ローカルに魅力を考えてグローバルに発信



することを推薦しています。例えば、神戸港に入港し、神戸港で下船していただき、陸路で見て回って、船は神戸港から門司港や長崎港へ行き、そこでお客様を出迎えるといったクルーズです。

(田久保委員)

飛鳥Ⅱでは、子供たちに船内見学は行っているのですか。

(幡野会長)

結構実施しています。地方の港に寄港した際にも船内見学会を実施しています。

(田久保委員)

海外では、カリブ海やブーケットでチャーターヨットが盛んですが、ヨーロッパでは、ロシアからのお客が増えたそうです。これは、飛行機の直行便を入れたことが影響しているかもしれないと聞いています。ですので、瀬戸内海でも海外からの直行便ができれば、お客が増える要因になるかもしれないと思いました。

(幡野会長)

飛行機の話であれば、最近では、外国人が日本に飛行機で来て、日本で観光した後にクルーズ客船に乗る方が多いです。

(矢ヶ崎委員)

今後は、様々な交通体系を利用して、如何に提案できるかが必要になってくると思います。

(仁田委員)



最近の旅行形態で、1人での旅行形態がホテルや旅行でも増えています。クルーズの世界でも海外ではシングル向けのクルーズがあったりします。飛鳥Ⅱでも利用する上では、1つの部屋を1人で利用するのは割高になってしまいますので、将来的に、シングルでの対応等はどのように考えられていますか。

（幡野会長）

確かに1人で参加される方は増えています。ワールドクルーズでも、お客様の中の1割は1人で参加されています。料金は、1人で参加される場合は、1.5～2人分の料金をいただいております。今後、新しい船を考える際には、シングルユースの部屋を少しは作ってもいいのかなと思います。

（矢ヶ崎委員）

確かに旅行については、データで見ても、1人旅だけがじわじわ増えており、家族旅行については減っていませんが、2人旅だけがじわじわ減ってきております。

今回、非日常を楽しむというキーワードを基にクルーズというのは、本当に多くの魅力があるということを実感しました。本物を味わえる、入港の際の景観、陸との連携や空との連携、移動中の過ごし方も様々あると思いますが、まずは一度乗っていただくというハードルを如何にクリアするということが大事です。そのためには、船の見学会に参加していただく機会も活用していき、商品の中身をいろいろカスタマイズしていくことの必要性を勉強させていただきました。



本日も非常に実りがある意見交換会となったことを御礼申し上げます。



「飛鳥Ⅱ」の船内見学中の一場面